

団地内ベンチの整備について

建物施設委員長 山崎 茂

建物施設委員会では、昨年度から団地内のベンチの整備について検討してまいりました。まだ、最終的な結論はでておりませんが、これまでの経緯と課題、今後の進め方等についてご報告いたします。

1 検討の経緯

昨年度、破損が見られ、危険もあるため撤去・取り替えが必要となるベンチがいくつかでてきました。その際、そのまま同じものを設置するのか、設置場所や素材を検討し直すのか、あるいは撤去廃棄するのか等の点が問題になりました。今後も更新が必要となるベンチは次々と出てくるので、団地内全体のトータルな更新の方針が必要ではないかという議論が出て参りました。

同じ頃、長期修繕計画特別委員会からも、ベンチの整備計画の必要性が提示されており、団地全体の方向性を明確にしておくことが必要と判断し、昨年、本委員会で検討をすすめ、素案を作成いたしました。しかし、その後、様々なご意見もあり、今年度の継続検討課題となっております。

2 現状と課題

現在、団地内には42のベンチがあります。これらのベンチは、木製がほとんどで、その置かれている場所のコンセプトによるものと思われる様々な形状のものがあります。全体として見たとき、現状で課題としてあげられているのは、次の点です。

- (1) 日当たりが悪く、湿気のため苔やカビ、さらに鳥の糞等が表面についてしまっているベンチがある。
- (2) 動線から大きく外れていたり、蚊が多いなど周囲の環境から利用頻度の低いベンチがある。
- (3) 団地住民が高齢化する中、背もたれや肘掛けなど高齢者に配慮したベンチがほとんどない。

こうした点を解消しながら、全体としては調和を保つことが出来るような方向を検討していくことが重要と考えています。

3 ベンチ整備の方向性

上記の課題から、今後のベンチ整備を考えていく上で、材質の問題、設置位置の問題、形状の問題等が検討のポイントになるかと思えます。

長期修繕特別委員会の報告でも、C Iハイツの資産価値を高めることに通じるとされていることを踏まえ、機能的な側面とともに見栄えという点も考慮していく必要があると考えています。

予算としては、修繕積立金を使って一度に整備するのではなく、破損や、使用不能となったものから順次更新していく形で、年度内の施設整備の予算として計上していく予定です。その際の形状・材質、設置場所の変更か廃棄かなどの方向をそれぞれのベンチについて決めておく必要があり、さらに新設が必要な場所があるかどうかについても検討していかなければなりません。大きな方向性としては、次の3点を考えています。

- (1) 寿命や維持管理等を考え、樹脂製のベンチを増やす。
- (2) 人の動線に配慮し、高齢者の座りやすい背もたれや肘掛けのあるベンチを設置していく。
- (3) 利用頻度や周囲の状況を考え、移動や撤去廃棄も含め検討する。

現在、大きな変更が検討されているのは、せせらぎの並木道沿いのベンチと鐘の鳴る広場のベンチです。今年度中には、具体的な全体像を作成する予定ですので、また、ご意見をお寄せください。